武満 徹メモリアル

虹へ向かって、パルマ

日本の作曲家シリーズ第21回演奏会

山下一史指揮／神奈川フィルハーモニー管弦楽団

久田典子

2月20日(金)19時開演(18時半開場)

神奈川県立音楽堂

伊藤弘之:
2台のピアノとオーケストラのための
「シーシュポスの神話」(横浜市文化振興財団委嘱作品／世界初演)
長尾洋史、山田武彦(ピアノ)

武満 徹:
星-島(スター-アイル)～オーケストラのための
虹へ向かって、パルマ
～オーボエ・ダモーレとギター、オーケストラのための
鈴木大介(ギター)、柴山 洋(オーボエ・ダモーレ)

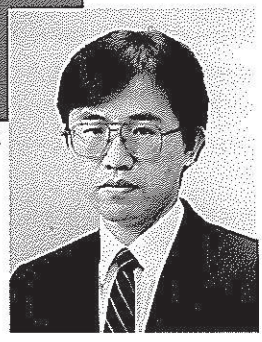
久田典子:
PURSUIT
～チェロと弦楽オーケストラのための(日本初演)
安田謙一郎(チェロ)

湯浅譲二:
始源への眼差Ⅱ

入場料:一般 3,000円／学生・シルバー(60歳以上)1,000円(当日、身分証明書を携帯)

お問い合わせ:横浜市文化振興財団☎045-261-1800
神奈川フィルハーモニー管弦楽団☎045-331-6699

湯浅譲二



伊藤弘之

チケット前売:神奈川フィル・チケットサービス☎045-331-6699／音楽堂チケットセンター☎045-263-2255／県民ホールチケットセンター☎045-662-8866／チケットセゾン☎03-3250-9990／チケットぴあ☎03-5237-9990／サンハート☎045-364-3810／横浜髙島屋6Fチケットショップ、相鉄ジョイナスプレイガイドほか主要プレイガイドにて発売中

食わず嫌いも、先入観もなく聴く耳にならば、最晩年の武満徹の音楽は「難しい」と響くはずもない。現代の日本に普通に暮らし、テレビや映画などのメディアが垂れ流す音たちに何の抵抗もなく接している人であれば、映画音楽の隠れた巨匠でもあった武満がオーボエ・ダモーレとギターという愛すべき楽器たちのために遺した音が、無性に懐かしくすら感じるはずだ。オーケストラが描く透明な響きの海に、どこかで聴き覚えがあるようなメロディの断片が浮かんでは、消えてゆく。遥か遠くで発見された歌が、手をすり抜けていった瞬間の、雄弁な沈黙。

80年代以降の武満徹は、耳に強烈な刺激を与える類の未知の音響を探る実験よりも、私たちが慣れ親しんだ音に新しい美を聴く作業に取り組んだ。この晩に演奏される2作には、周囲の目など気にせず、自分が本当に美しいと思う音だけを素直に探していた芸術家の姿が見える。

盟友湯浅譲二の老いを知らぬ厳しい音の探求と、若き俊英ふたりの真摯な試みを、天国の武満はどのように聴いているのだろうか。2月20日は武満徹の2度目の命日。

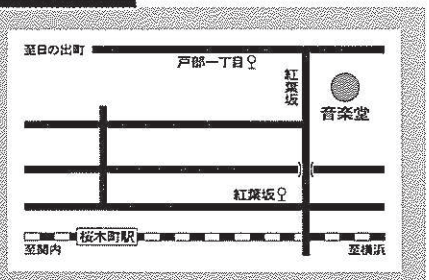
——渡辺 和（わたなべ・やわら／音楽ジャーナリスト）

伊藤弘之／1963年生まれ。カリフォルニア大学サン・ディエゴ校音楽学部大学院で博士号取得。湯浅譲二、池辺晋一郎、ロジャー・レイノルズ、ブライアン・ファーニホゥの各氏に師事。95年ヌオヴェ・シンクロニー国際作曲コンクール（ミラノ）第1位。受賞作が伊リコルディ社から出版。96年ダルムシュタット国際現代音楽夏期講座でシュタイペンディアム賞。横浜市文化振興財団委嘱作品《2台のピアノとオーケストラのための「シーシュポスの神話」》は、カミュのギリシア神話に基づく短編をもとに構想された作品。

武満 徹／1930〜96年。清瀬保二氏に師事して「新作曲派協会」に所属。その後「実験工房」（51年〜）、「トランソニック」（72〜73年）などにも属す。75年《カトレーン》、80年《ヴァイオリンとオーケストラのための「遠い呼び声の彼方へ!」》で尾高賞受賞。《星-島（スター-アイル）〜オーケストラのための》は、早稲田大学創立100年を記念して82年に同管弦楽団からの依頼により作曲されたもの。一方、《虹へ向かって、パルマ〜オーボエ・ダモーレとギター、オーケストラのための》は83年に死去したスペインの画家、ホアン・ミロへのオマージュとして作曲された。日本のオーケストラによる演奏では今回が初演である。

久田典子／東京音楽大学作曲科、同研究科修了。日本音楽コンクール入賞。ヴァレンチノ・ブッキ国際音楽コンクール（ローマ）第1位。ISCM「世界音楽の日々」（チューリッヒ）入選。三枝成彰、湯浅譲二の両氏に師事。これまでに国内外の音楽祭や演奏会で作品が紹介されている。現在、東京音楽大学講師。《PURSUIT〜チェロと弦楽オーケストラのための》は96年セロツキ国際作曲コンクール第2位、ドイツ・メック出版社賞受賞作品。世界初演はポーランド放送管弦楽団（ブルーノ・フェルナンディス指揮）によって行われ、今回が日本初演となる。

湯浅譲二／1929年生まれ。慶応大学中退。独学後、51年「実験工房」に属し、前衛的な作品を次々と発表した。72年《オーケストラのための「クロノプラスティック」》、88年《ヴィオラとオーケストラのための「啓かれた時」》、97年《ヴァイオリン協奏曲—イン・メモリー・オブ・武満徹》で尾高賞を受賞。《始源への眼差Ⅱ》は「今日の人間が忘れ去ったもの——かつて人類が抱いていた自然、宇宙への畏怖の念、祈り——を回復しようとした作品」。



●JR・東横線・市営地下鉄桜木町駅下車徒歩10分
●京浜急行日の出町駅下車徒歩10分
●市営バス紅葉坂・戸部一丁目下車徒歩5分

＊未就学児童の入場はご遠慮ください。やむを得ぬ事情により、出演者等が変更されることがあります。あらかじめ、ご了承ください。